

ひるっぱ

- 2 医療今昔物語／循環器科 5 深谷
- 2 ザ・RINSYO 4 臨床検査部 森本
- 3 キラリと光る看護 Part2 尾崎
- 3 ハッスル研修医 雲井
- 3 「今月の言葉」 近森理事長
- 4 第99回、第100回、第101回
地域医療講演会 和田／久保田／宮崎
- 5 ハートセンター10周年記念講演会 入江
- 6 第102回地域医療講演会 畠中
- 6 リレーエッセイ／岡田
- 7 オルソ病院開院5周年 鄭
- 8 第二分院みどりのカーテン 和田
- 8 クリニック探訪 みちなか整形外科
- 9 ポリオ検診にさきがけて第三部 和田
- 9 標準版家族心理教育研修会 山中
- 9 院外エッセイ 田中裕美
- 10 熱烈応援 公文／五藤
- 11 広域医療搬送訓練 井原
- 11 防災訓練と広域医療搬送訓練 山本

高知県高知市大川筋一丁目1-16 〒780-8522 tel.088-822-5231 発行者●近森正幸／事務局●川添晃

新館2階の新しい手術室

近森病院麻酔科部長兼
手術部長 楠目 祥雄



◀手術室の入り口



心血管外科の
ルーム8の手術室



広いホールの周りに
順序よく向かい合っ
て配置された手術室

新館2階部分に新しい手術室が完成し、8月27日に無事運用を開始しました。設計開始から多少の期間、苦労を経ての完成にたいへん感謝しております。関係各所の皆様のご協力に心より感謝いたします。

平成26年春の新本館棟完成まで、これまで通り7室での運用となります。7室は明るく広いホールの周りに順序よく配置され、各々へのアクセスが良くなりました。スタッフ区域からホールへ繋がる通路は、ちょうど病院正面玄関の上方空間に面することになり、気持ち良い外の光を浴びています。建物の構造上、個々の手術室の広さや天井の高さには制約がありましたが、入口や内装の配置を工夫して、手術室を出来るだけ広く使えるようになりました。

クリーンサプライルーム（中央材料室）や保管・配盤室、機材庫も広く作り直しました。備品では、手術台をはじめ新しい医療機器が導入、あるいは更新されました。運用面では、手術患者さんの搬入出方法が変わりました。

新たに手術室映像配信システムが導入されました。術野撮影カメラ、電子カルテ画像、内視鏡、顕微鏡、放射線イメージ、エコー画像など、手術室内のあらゆる画像・映像を複数のディスプレイに振り分けて映出し、また室外特定の場所に配信し、更には編集・保存することが可能になりました。

これらによって、手術の質、安全性、効率を高め、近森病院の救急医療、地

域医療支援態勢にこれまで以上に貢献できるようになりました。

これからさらに1年半後には、新本館棟にあと4室の手術室が追加され、いよいよ全完成となります。血管内臓手術に対応したハイブリッド手術室や関節・脊椎手術のためバイオクリーンルームなど高機能手術室が加わります。今から心待ちにしております。

くすめ よしお

メディカルスタッフ・ワークウェア 4 整形外科医師



2009年より、整形外科は白衣をワークウェアに変更した。カラーは青色。当時放送されていたコード・ブルーの山下智久さんの颯爽とした姿に憧れて、ということらしい。動きやすいし、カッコいいと若い医師に評判だ。流行に敏感な科の姿勢は、そのまま持ち物にも表れ、診察にはiPadを使用し、整形外科の教科書として使ったり、診察に必要な情報を共有したりと重宝している。新しい医療技術を柔軟に取り入れ、日々の研鑽を欠かさないことが、チーム医療のリーダーに不可欠な素質である。

右袖にはAOのマークが

モデル●井上智雄医師

iPAD

聴診器
角度計
ガラス
バッジ
PHS
整形外科マニュアル
ペン
ペンライト
打鍵器
電子辞書

不整脈（前編）

近森病院循環器科部長
深谷 眞彦



心臓の拍動は電気的な活動によって維持されているが、規則的な拍動を維持するために心臓には刺激伝導系という特殊な心筋でできた組織がある。この組織は電気的な活動（興奮という）を系統的かつ効率よく心臓の隅々に伝導させるためにある。

実は、この組織の発見と命名をしたのは日本人の田原淳である（1906年）。ノーベル賞は当然と評価されているこの業績に対して、田原の名は実はあまり知られていない。医学生なら必ず刺激伝導系の勉強はするし、後世の心臓電気生理学、心電学、不整脈学等はすべてこの刺激伝導系に端を発しているといっても過言ではないのである。

ただ、この10数年来、遅ればせながら田原の名をもっと顕彰しようという活動がある。この刺激伝導系は肉眼では見えない組織で、心臓の興奮も電気だから目には見えない。このため、たくさんの種類がある不整脈の個々の真の姿（メカニズムなど）を知るのは容易ではなかった。

心電図検査は今では最も基本的な検査の一つとして広く行われている。私が医師になった頃は既に特殊検査ではなかったが、ほんの数年前まではまだ写真現像式の心電計が使用されていたという。さすがに母校の大学病院では直記式だったが、通常は1誘導記録で、中央検査室などに3誘導同時記録の心電計があった。この時代、不整脈の診断とそのメカニズムの検討は心電図記録を解析して、これに基礎的研究からの知識を参考に、すべて頭の中で行われていた。

私が医師になった頃の心電図不整脈学の大家としてKatz, Pick, Langendorfの3名の先生方が特に有名であった。英語（難解な文章が多かった）の厚い本を先輩の先生方と一緒に読破した思い出がある。

不整脈のメカニズムは、時には1枚

の心電図を何日もかけて解析し考察していた時代であるが、驚くべきことにこの時代の不整脈学者の考察の多くが、その後の医学の進歩で正しかったことが証明されてきたことである。

私が若い頃、Pick先生が目の前で1枚の不整脈の心電図を解析して、そのメカニズムに心臓の興奮のリエントリー現象を推定されたことを鮮明に記憶している。機序としての多くの可能性を鑑別した後に推定に至った論理

は、動物実験の知見があったとはいえ、非常に魅力的であった。このリエントリー現象は、現在は各種の頻拍性不整脈の最も多いメカニズムとして証明されている。この後、臨床心臓電気生理学が不整脈のメカニズムを次々と明らかにしていき、真の姿が見えてきたからこそ今の高周波カテーテルアブレーション治療に至る不整脈の根治が可能な時代になってきている。

ふかたに まさひこ

ザ・RINSHO 4 臨床検査部

昔と今とこれから

近森病院臨床検査部
細菌検査室主任 森本 瞳



◀後列左より、柳井さや佳、吉永詩織、中岡大士呼吸器内科科長、高橋美穂子、山下藍。前列左より、中間貴弘非常勤医師、森本瞳（筆者）

細菌検査室は当初2名の技師が担当する小さな部署でしたが、現在は6名の技師が担当し、ここ数年の間で人員増員、新細菌システムの導入、新しい検査法の確立など、様々な変化がありました。

ルーチン業務としては患者検体中の微生物の鏡検、同定、薬剤感受性検査を行っており、時間を要する検査ではありますが、正確かつ迅速な検査結果が反映できるように日々努力しています。またICTの一員として近森会グループの感染対策にも積極的に携わり、細菌室から一歩外へ出て、他の部署の方々と活動する機会も多くなりました。

近年、耐性菌による院内感染の問題が多く報じられていますが、近森会グループでも耐性菌の検出は年々増加している状況です。このような状況のなかで細菌検査室が成すべきことは、菌の情報を正確に収集、分析し、その情報をいち早く発信することだと考えます。今後も院内感染対策は医療界において重要な位置づけとなることが予想されます。

微生物分野に関する知識、技術のレベルアップを図るとともに、近森会グループの感染対策にさらなる貢献ができるような体制を整えていきたいと考えています。

もりもと ひとみ

オルソリハ5年の成長と 患者さんと共に 味わった感動



近森オルソリハビリテーション病院
看護部長 尾崎 貴美

この10月でオルソリハ病院は開院して5周年を迎えます。急な開院と初

ハッスル研修医 緊張感を大切に



初期臨床研修医 雲井 美帆

いつもお世話になっております。こんな私もついに働けることになりすごくうれしいです。研修が始まって半年ほどですが、たくさんの方に出会い、新しい発見がたくさんありました。まだまだ緊張することばかりですが、緊張感を大切に頑張ろうと思います。

実際に患者さんに接すると、たくさんの方の人生がつまみでいて、いろいろな方がいて、日々学ばせていただいております。それと同時に癒されています。

学生時代は部活が楽しくて、中高ではバスケ、大学ではテニスばかりしていました。中高まではあまり活発な遊び方を知らなかったのですが、大学で高知の海のもぐり方や、魚のこと、キャンプ、運転など、いろいろなことを学びました。そしてその頃、パーティーが大好きになりました。たこ焼き、餃子、鍋パーティーなどが主ですが、新たなものを模索中です。

楽しく、充実した毎日を送れるよう頑張ります。これからもご指導よろしくお願ひします。

くもい みほ

めのスタッフ集団で、最初はぎこちなく患者さんに対しても未熟なところが多かったと思います。

5年経ったいま、振り返ってみて一人ひとりのスタッフが自分の役割をしっかりと自覚し自信を持って果たしている、そして成長してきたと実感します。

それは看護師だけでなく、セラピストはじめソーシャルワーカー他医療スタッフも同じで、患者さんとご家族を中心として一丸となった姿勢であり、まさにチーム（チームとは、医師、看護師、セラピスト、他医療スタッフと、何よりも患者さんとご家族）が一体となった医療と看護とリハビリの成果が

現れていると実感します。これはまさに近森会で取り組んでいる「チーム医療」がこのオルソリハにも確実に根付いているといったところです。

なにより象徴するのが、患者さんのご意見とアンケートです。約5年間で延べ2,900人余りの患者さん入院されました。再び希望される方も多くなりました。

最初の方は、なれないスタッフに対するきびしいご意見やご指摘も多かったのですが、最近では感謝の言葉や気持ちが多く書かれています。あるときは指名して医師はもちろんのこと、看護師やセラピストに対してうれしい励ましのお言葉をいただくことがあります。そしてその数が確実に増えてきました。

最初は一人ひとりの力は小さなものであっても患者さんと共に味わった体験がスタッフの力となり、患者さんと共に支えあい成長していくとき大きな希望と感動があるものです。何よりも患者さんに治療してよかったと思ってもらえるそんな病院を目指して6年目も続けていきたいと思っています。

おさき きみ

青春の日々



近森 正幸

今回取り壊される本館は1972(昭和47)年に完成して、1992(平成4)年に新館が完成するまで、近森病院の急性期医療の中核であった。新館完成後も、1階は画像診断部、2階は手術部、3階はICU、CCU、4階にHCU、その他内視鏡センター、リハビリ訓練室など、急性期医療の機能を支えていた。

むかしは救命救急センターもなく、いま以上に重症の患者さんが救急車で次々と搬ばれてきた。医師、

看護師も少なく、医療機器も貧弱でいい薬もなく、今から見れば助けることができる多くの患者さんの生命を救うことが出来なかった。そんなこともあって、むかし救急外来と一緒に頑張ってくれた看護師さんたちにも来ていただき、清め祓いの式を行なった。

この10年ほどで医療は飛躍的に良くなっている。まず医師はじめ医療スタッフが格段に増え、医療が高度化するとともにリハビリや栄養サポートなどの多くの医療専門職によるチーム医療で、手をかけた医療が出来ようになり、急性期医療は大きく変わってきている。

本館の建物の解体はすでに始まり、床や天井が剥がされていて、ここで過ごした時間の多さからだろうか、ふと寂しい思いがこみ上げてきた。いままさに壊されていく本館でひたすら働きながら、青春時代を駆け抜けてきた多くの医療スタッフたちと、本館とのお別れをした。

理事長・ちかもり まさゆき

第 99 回地域医療講演会

川平法を体感して

近森リハビリテーション病院
リハビリテーション科科长 和田 恵美子



NHK スペシャルで一躍有名になった鹿兒島大学霧島リハビリテーションセンター川平和美先生の講演会のお話を佐野良仁先生からお声かけいただき、8月20日の夕方、院内職員向けに近森リハ病院で講演を行っていただき、翌日に県内の医療関係者向けに講



演と実技指導をしていただきました。数々の促通法を実際に提示、理論をご講演いただきました。理論に基づいた実践の大切さ、基本的な動作の獲得のための綿密な評価を実践されていました。ひとつの筋肉を動かすためにどうしたら動作がでるのか？と反射をつかったり位置を変えてみたり大変複雑なことをいとも簡単におこなっていましたが、自分で再現しようとしたら難しさにおどろきました。

促通法という訓練する側だけが大変なイメージがあったのですが、患者さんが主体となって「動かそう！」という気持ちがとても大切でした。当院

ではテレビをみながら理学療法士さんに足を動かしてもらっていたり、「マッサージしてもらいたい」という言葉をきいたりよくするのですが、訓練は真剣勝負、動かそうとがんばらないとなんにもならないのだなあと感じました。川平先生の病院ではあまりの人気のため一カ月しか入院できないそうです。しかも外来もやっていません。一カ月間で家族と本人が手技を習得して今後やっていかなくてもいけないので本当に真剣に訓練をするそうです。どれだけ訓練をしたかという量ではなく質が大事になってきます。

当院ですぐ実践するには難しいのですが、ぜひ取り組めるところから取り組んでみたいと思いました。朝から晩まで指導していただいた川平先生ありがとうございました。 わだ えみこ



第 100 回地域医療講演会

国民全体の幸福を考えて

近森病院
看護部長 久保田 聡美



教授兪炳匡先生に「医療経済学者から

第 100 回の記念すべき地域医療講演会は、国際的にも評価の高いカリフォルニア大学の准



見たアメリカの看護・日本の看護」というテーマでご講演をいただきました。8月末に札幌で開催された日本看護管理学会の教育講演のために来日されたご縁で、高知県立大での講義の合間を縫ってのご講義でした。

その講義は、看護領域に留まらず、日本の医療そして国際的な医療政策に

まで及ぶ広い視野に立った内容でした。先生が強調されたのは、医療経済学というややもするとミクロ経済の話に偏りがちで、目先の病院経営（悪く言えば）「金儲け」的なイメージがありますが、それは経済学としては一指標にしすぎず、本来の経済学は国民全体の幸福を考え、限られた資源をどのように配分するのが最適なのかを科学的に分析する学問であるということでした。

講義後は理事長も交え、明日の日本の医療への展望について熱い議論が続きました。記念すべき第 100 回に相応しい素晴らしい講演でした。

くばた さとみ

第 101 回地域医療講演会

漢方系を明快に

近森病院第二分院
副院長 宮崎 洋一

毎年、超多忙な中ご来高いただいている静仁会静内病院院長の井齋偉矢先生が、今年も9月7日（金）にお越しくださり「多愁訴に対する漢方治療の実際」という演題で講義をしてくださいました。

漢方の科学的理解とそれに基づく漢方系の啓蒙、普及のために日々ご尽力



されている先生ですが、今年も更にバージョンアップしたお話を聞かせてくださいました。

先生ご自身は「自分の講義のなかでいちばんすっきりしない」とボヤいておられましたが、まだまだ科学的に解明に至らない様々な多愁訴とそれに対する漢方系をいつもの如く明快にご教

示いただきました。

精神科医の私にとっても日頃よく使用している漢方系の使用方法について随分理解が深まりました。大建中湯がFDAに認可されそうとのことで、漢方もいよいよ国際化されそうな予感がしてとても楽しみです。

みやざき よういち



3人の先生をお迎えして

近森病院心臓血管外科
部長 入江 博之



ともに講演会を主催した近森病院循環器科主任部長の川井和哉医師(左)と麻酔科部長の楠目祥雄医師

2002年10月1日のハートセンター開設から10周年を迎えることを記念し、9月9日(日)に記念講演を開催いたしました。参加者が1000名を越え、かるぽーと大ホールが満席になるほどの盛況ぶりでした。

まず川井医師よりハートセンター10周年の実績と院内誌「ひろっば」から振り返る歴史をご報告しました。続いて森田先生より近代医学と麻酔医療発展について歴史を追ってご紹介いただきました。山科先生からは最新の血管治療についてクイズや動画を交えながら分かりやすくご紹介があり、最後に天野先生からは蓄積されたデータを検証し、今現在行われている心臓血管外科治療の工夫や実績についてご講演いただきました。

心臓治療に関してのお話が昔から現代、さらに将来にわたり、10周年記念にふさわしい講演会になったと思います。

また、休憩時間に行われた「フラッシュモブ(その時だけの集団ダンス)」も大好評でした。

10周年を迎えましたが、今後も地域医療の一員として医療と向き合っていく所存ですので、今後ともどうぞよろしく願いいたします。

いりえ ひろゆき

献血ありがとうございました。

今年も夏の献血を8月31日(金)に、総合受付前で開催いたしました。今回は400ml限定の献血キャンペーンで、53名の方にご協力いただきました。ありがとうございました。

ハートセンター10周年記念講演会の講師の先生方



岡山大学
学長 森田 潔先生



東京医科大学循環器内科
主任教授 山科 章先生



順天堂大学心臓血管外科
教授 天野 篤先生



会場で記念写真。前列左から楠目部長、入江部長、順天堂大学 天野教授、岡山大学 森田学長、近森理事長、東京医科大学 山科主任教授、浜重副院長、深谷部長、川井主任部長、川添管理部長

ワイン講座 ● 4



◀エトナ・ロツ。ラズベリーのフルーティな印象と濃い味わい、心地よい余韻

シチリア島は、イタリア半島の西南端、地中海最大の島です。島と言っても面積は、四国の約1.4倍。典型的な地中海性気候で、穀物をはじめとする農作物の生産地として知られ、なかでもオリーブとワイン生産量は国内でもトップクラスです。

近年、ワインの品質の向上は目覚ましく、イタリア国内でも最も注目されている産地といっても過言ではありません。従来、シチリアワインのイメージは、パワフルで筋肉質な「近代的」なスタイルが一般的でした

地中海最大の島 シチリア島のワイン

が、イメージをいい意味で裏切る素晴らしいフィネスを持ったワインが産み出され、我々にも紹介されるようになりました。

そのエリアは、島東部のヨーロッパ最大の活火山エトナ山麓に広がる畑で、50年以上に渡る噴火活動の結果、多様で特殊な土壌で、ブルゴーニュ地方によく似た畑の特徴が顕著で、フィロキセラに侵されていない非常に樹齢の高いぶどうの木が多く残っています。

自然な果実味、洗練された上品な味わいのシチリアワインに出会える事にご期待下さい。

鬼田 知明(有限会社鬼田酒店代表)

第 102 回地域医療講演会

伊藤孝先生をお招きして
 広域災害時の危機管理
 —東日本大震災を経験した
 課題と対策—



輸血療法委員会委員長
 麻酔科部長 畠中 豊人

9月15日、輸血療法委員会の主催に高知県血液センターの後援を受けて、第102回地域講演会を開催しました。

講演会を開催しました。

演者にお招きした、日本赤十字社東



北ブロック血液センター所長の伊藤孝先生は、本来のテーマである輸血を中心にしながらも、かつ輸血にのみ限定することなく、表題の通りのきわめて

広範囲にわたる内容を、示唆に富む語り口でお話し下さいました。

東日本大震災という、この未曾有の経験を、なんとしても多くの人々に伝えなくてはという、熱意と信念が伝わってくる、有意義な2時間となりました。

当院のみならず、幡多けんみん病院や高知赤十字病院、高知大学や高知県庁などの輸血、救急、防災関連の方々がたくさん参加をして下さり、成功裏に終わることができました。

後援の血液センターの皆様、演者の伊藤先生、ほんとうにありがとうございました。はたけなか しげと

お知らせ

◆第104回地域医療講演会

「心室頻拍アップデート
 —メカニズムと最新の治療法—」
 日時：2012年10月16日(火)

18:30~

会場：近森病院 管理棟3階会議室
 講師：東海大学医学部附属八王子病院
 循環器内科教授 小林義典先生

◆第105回地域医療講演会

「ポストポリオ症候群対策の実際」
 日時：平成24年10月19日(金)
 17:30~19:00

場所：近森病院管理棟3階会議室2,3
 講師：藤田保健衛生大学
 坂文種報徳會病院
 リハビリテーション部
 理学療法士 井元大介先生
 講師：藤田保健衛生大学医学部
 リハビリテーション医学講座
 医師 沢田光思郎先生

リレーエッセイ

親父になって

訪問看護ステーションちかもり
 作業療法士 岡田 祐一



私は近森会に就職し8年間、作業療法士として働いています。近森リハビリテーション病院、訪問リハビリテーションちかもりで勤務し、現在は訪問看護ステーションちかもりにて訪問リハビリの仕事をしています。

私事ですがつい先日、待ち望んでいた長男が生まれました。すべてが初めての中、夫婦で悪戦苦闘しながらの子育てが始まりましたが、どんな

に仕事で疲れて帰ってもわが子の顔を見れば疲れを忘れてしまうほど可愛く思い、早速親バカになってしまっています。

父親になったことで色々考えることが多くなり、今まであまり健康面には関心がなかったのですが、わが子のためにも生活習慣を改善し健康にも注意をしなければいけないと思うようになりました。仕事に関しても今までよりも努力し、専門的にも人間的にも成長しなければならぬと感じています。

日に日に成長していく子供を見ると、自分も負けないよう日々成長していけるように頑張っていきたいと思います。 おかだ ゆういち

お弁当拝見 8

残りは夫の夜のおつまみに



近森リハビリテーション病院
 言語療法科科長 矢野 和美



毎日子ども二人と自分の分ですつのお弁当を作っています(年に数回は夫にも作りますが……)。上の子どもが中学生になってから複数のお弁当作りが始まりましたが、最初のうちはテーブルに同じ内容のお弁当箱が大小並ぶのが楽しくて、写真を撮ったりメニューをメモに書き残していました。

先日見返したメモに「ウィンナケチャップ炒め、ゆう(息子です)不評!」とか「1品冷食、手抜き」などの走り書きを見つ

け笑ってしまいました。

メニューは前日の夜に冷蔵庫の中身を見て大体決めておきますが、朝の思いつきと彩りでも変更することも多いです。おかずは4品か5品で、うち2品は定番でプチトマトとちくきゅう。あとは炒め物が焼き物、煮物。煮物は火にかけていたらあとはお鍋がやってくれるので大抵メニューに入ります。

この日は定番の2品に加え塩糍で味付けした野菜炒めと鯉のパン粉焼き。鯉の



パン粉焼きはヒットメニューで、鯉のたたきに塩胡椒、小麦粉、水、パン粉をまぶしてオリーブオイルで焼きウスターソースをかけるのですが、冷めてもおいしくご飯が進みます。フライパンで一気に焼いて残りは夫の夜のおつまみになりました。

忙しい朝の時間ですが、気軽に楽しんで作っています。

やの かずみ

オルソ病院5年間の 取り組みについて

近森オルソリハビリテーション病院
院長 鄭 明守



2007（平成19）年10月に開院した近森オルソリハビリテーション病院は、今年の10月で開院5周年を迎えました。

当院開院以前には、整形外科の手術患者さんは早期に他の医療機関への転院を余儀なくされており、急性期と回復期との連携が困難な状況がありました。現在は手術から在宅まで、またその後のfollowまで、近森会のグループ内で完結することが可能となっています。

開院当初、北村院長（現近森病院副院長）、田中孝明医師（現岡山大学大学院）ほかの体制にて診療を開始し、2009年より鄭、整形外科医師らによる体制となりました。

しだいに当院の県内医療機関への周知に伴い、近森病院以外からの患者紹介も増え、今後は診療の質を落とさないために、職員一人ひとりのスキルアップがさらに重要となると思われます。

病院運営においては開院から試行錯誤の連続で、朝令暮改は当たり前、と

くに2009年からの3年間とはとても大黒柱とはいえない院長のせいか、職種を問わずスタッフが積極的に意見、アイデアを出してくれており、オルソファーム（小さいながらも畑仕事の動作確認を目的とした屋外設備）の整備や、入院生活中のQOL改善のための各病棟へのDVD視聴設備の導入、また今年8月には、ケアワーカーの念願であった夏祭り（写真参照）を開催することができました。

この5年間で人間でいえばやっとよちよち歩きが出来だしたところであり、さらに次の5年間の成長を目指していきたいと思っています。今後ともよろしく願います。 てい あきもり



▲オルソリハでの夏祭り
◀四国で初めての反重力トレッドミル。ウエストの空気圧で体重を調整して歩くことができ、▼足元は下の写真のように透明になっていて歩き方をチェックできます



▲みんなでがんばってよーいドン！▼親子二人三脚

近森会グループ 第20回運動会

台風16号が近づいていてあいにくのお天気でしたが、およそ600名もの参加者があり、みんな思いっきり楽しみました。



▼ゴール！

▲親子玉入れ▼みんなでガブリ！パン食い競争



近森病院第二分院

みどりのカーテン

近森病院第二分院

事務長 和田 廣政



残暑も過ぎ、涼しい季節になりました。第二分院では今年7階パティオと6階作業療法室ベランダにゴーヤとナーベラー（沖縄へちま）を植えてみました。夏の直射日光をグリーンで遮り節電効果をねらったのですが、職員もデイケアの利用者も植物の成長を楽しまれ、さらに実ったゴーヤとナーベラーは希望の方に持ち帰ってもらいました。沖縄からの研修生（山城さん）に教えてもらったナーベラーの味噌炒めはトロっとした食感で甘くて「へちま」の認識が変わりました。

わだ ひろまさ

平成 24 年職員旅行 ● 北海道ゴルフツアー

ゴルフといっても午前中だけ、昼から夜までしっかり北海道を味わいました



札幌といえば時計台。はりまや橋と並んで3大ガッカリというが、わか橋に比べれば、リッパ!



▲小樽近くで食べた魚介類の食堂は旨かった



▲広々と、そして難しいゴルフ場



サッポロのビール工場



▲ゴルフ場のカラマツ林。北原白秋に「からまつの林を過ぎて」という詩があるが、それは確か軽井沢の林だったか

10月の歳時記

コスモス

近森病院6C病棟
看護師 小松由季



絵・総務課
広報担当
公文幸子



今年もコスモス祭りが9月29日(土)～10月14日(日)に行われるので、機会があればぜひ見に行ってください。150万本のコスモスが咲き乱れる姿を越知町宮ノ前公園で見ることができます。コスモスの花言葉は「乙女の純真」「真心」ですが、実は花の色によって花言葉が違うことをご存知でしたか。白は「乙女の純真」「美麗」赤は「調和」。黄色は「野生の美しさ」。黒は「恋の終わり」と、それぞれの意味を持っています。花の色を見て花言葉を連想しながら眺めるのもおもしろいかもしれませんね。

こまつ ゆき

みちなか整形外科クリニック

〒780-0965 高知市福井町811-1 (福井メディコプラザ内)
TEL.088-855-5888 FAX.088-855-5222
e-mail : michinaka-ortho@nifty.com

診療科目 ● 整形外科、リハビリテーション科、リウマチ科



院長 ● 道中泰典 S39.11.8 生まれ
趣味 ● スキューバダイビング、写真

近森病院と密に連絡をとりながら、高齢者の慢性疾患のみならず、外傷やスポーツ疾患に対しても理学療法士による運動器リハビリテーションを行っています。

また、MRI や全身用骨密度装置を備えており正確な診断と治療を目指した地域に密着したクリニックです。



骨密度 (腰椎、大腿骨用)



オープンタイプのMRI

9月3日オープン

クリニック探訪



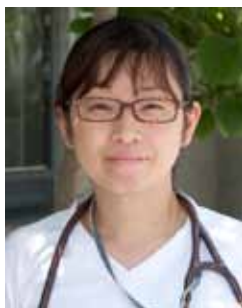
診療時間	月	火	水	木	金	土	木、日、
午前 9:00～12:30	●	●	●	休	●	●	祝日休診
午後 14:00～18:00	●	●	●	休	●	●	土曜日は
夜間 18:00～19:00	/	●	/	休	●	/	16時まで



ポリオ検診にさきがけて 第三部

筋力が落ちていたら ライフスタイルを見直す

近森リハビリテーション病院
リハビリテーション科科長 和田 恵美子



この「ポリオ検診にさきがけて」を3回にわけてお送りしてきましたが、10月20日のポリオ(脊髄性小児麻痺)検診会ももうすぐになりました。

ポリオの患者さんは小さなころから訓練を頑張ってきたために「がんばり気質」といわれる頑張り屋さんが多いといわれています。そのためちょっとした体の不調はなんとかがんばって一人で乗り越えようとしてしまいます。

検診会といわれても「人前で体をみせたくない」「なんとか自分で乗り越えたい」という気持ちが先になってしまっているようです。とくに高知県で

四国で初めて

標準版家族心理教育研修会を 開催しました!

近森病院第二分院
5階病棟看護部主任 山中 俊典

8月18日(土)19日(日)の2日間にわたり、四国初開催となる標準版家族心理教育研修会 in 高知を、近森会管理棟大会議室にて行いました。

四国のみならず遠くは神奈川、愛知から全23施設、60名のNs、PSW、心理士、作業療法士、管理栄養士らが参加。家族に対する心理教育について講義やグループワークを通して学び、大いに盛り上がりました。

やまなか としのり



はポリオの患者会も入会者が少ない状態です。

ポリオ検診会は現在全国で行われています。ポリオの患者会が中心となっており、産業医科大学(福岡)、藤田保健衛生大学(愛知)では10年近く行われ続けています。筋力の低下を以前のデータと比べて客観的にみることができ、装具を専門の医師、義肢装具士に相談ができること

ができます。

以前より筋力が落ちていたならばライフスタイルを見直す必要性があります。階段からエレベーターへ変更したり、歩行時に杖を使ったりなどの工夫で筋力を保つことができます。他県の検診会を見学してみると患者さんがきちんと自分の筋力の状態を把握し、生活方法を管理している自立した状態だということに驚かされました。頑張る方向を自分の体調管理に向けていただけたらすごいパワーを発揮するのだなと思いました。

ぜひ正しい知識と筋力のいまの状態の把握をおこなってください。今回は藤田保健衛生大学からポリオの検診活動をされている先生をお迎えするのでぜひご参加ください。

わだ えみこ

● ポリオ検診のお問い合わせは ●
近森リハビリテーション病院
医療相談室 川津 TEL.088-822-5231(代表)

院外エッセイ

万次郎みたいな土佐人

田中 裕美(ひろみ)

1948年9月24日、土佐清水市生まれ。1990年6月、ジョン万スピリッツを地域の子どもたちに広げ、国際交流活動と地域おこしを目的にウェルカムジョン万の会を設立



ジョン万は1850年(嘉永3年、江戸後期ほとんど幕末)、11年ぶりに米国から土佐清水に帰り、4日目には土佐のお殿様のもとへ。それから黒船騒ぎのなか、江戸暮らしを開始。

万次郎はウナギが好物で(幼少期から捕って食べたご馳走!?)、浅草に今もある鰻屋「やっこ」で蒲焼きをよく食べていたようです。万次郎は残った料理を必ず折り詰めて持ち帰るので「万次郎はケチ」とレッテルを貼られていたとか(米国の習慣、ドギーバック、今は日本でも一般的)。

この折り詰を持ち、「上がって来いや〜」と、両国橋の下で暮らす人々を呼び、食べさせていたようです。万次郎がヨーロッパに派遣される時、これを知った役人が「国の代表となるのだから、こうした付き合いは止めてもらいたい」と言いに来たそうです。万次郎は、「彼らが橋の下に住んでいるのも、あなたが役人をしているのも一つの運命だけで、本来、人間はみな同じはず」と言って帰らせたそうです。

万次郎は奴隷制度の残っていた米国で、ホイットフィールド船長さん

から身を以て示された民主主義と深い慈悲の心を学び、上下、貧富の差別なく人と接していったのです。

土佐藩の藩校の先生となり、英語を教えるばかりでなく、海外事情に関する知識と見識はそこに通っていた吉田東洋、坂本龍馬、岩崎弥太郎、後藤象二郎らに影響を与え、万次郎が持ち帰った米国式デモクラシーが自由民権思想と繋がっていったのではないのでしょうか。

勝海舟に招かれ米国事情を聞かれたとき、幕府関係者が愚にもつかぬ質問をするので「木の葉は青く、人間は足で歩き、日本と変わったところはない」と受け流した話は有名です。勝海舟に「米国では高い身分に就いた者は益々深く考え、振る舞いが高尚になります。ここが日本と大きく異なる所です」と答え、幕府の無能さをいつも嘆いていた勝は、大いに万次郎と意気投合したそうです。

私は県外や外国の人たちにジョン万のことを話すとき「ジョン万みたいな人は高知にはいっぱい居ます」と話しています。私の高知自慢です。

乞！熱烈応援

連携医療機関として

近森病院 糖尿病・内分泌代謝内科
リウマチ・膠原病内科部長 公文 義雄



この度、9月1日付けで当院に赴任し、糖尿病を中心とした内分泌代謝疾患、リウマチ・膠原病の臨床を品原科長と一緒に担当させていただくことになりました。

糖尿病はご存じのとおりメタボと兄弟、高齢者では1/3を占める国民病の一つです。一方、膠原病といいますと、不明熱の原因であったり、わかりにくい難病とよくいわれます。一見、両者は無関係に見えますが、実は合併症のしくみが似ています。合併症は急におこり、治療は案外難しい、などの共通点もあります。

今後は多くの先生方、スタッフの皆様方のお力をお借りして、高知県の連携医療機関として、微力ながら皆様のお役に立ちたく思います。どうかご支援の程宜しくお願い申し上げます。

くもん よしたか

健保組合と共に成長

近森会健康保険組合
主任 五藤 綾美



このたび、主任心得の辞令を頂きました。入職して12年、その間医事課で4年、総務課で5年の経験を経て、現在、健保組合で3年目を迎えます。

健保組合では、保険証の作成など健康保険に関する業務を行っています。また、直接皆さんと接する業務としては『健康づくり教室』や『がん検診』などがあります。設立して3年とまだ日が浅いため試行錯誤を重ねながらの運営ですが、常に皆さんのニーズを把握し、本当に必要とされるものを提供できるよう心掛けています。

微力ではありますが、まずは身近なことから皆さんをサポートできるよう、健保組合と共に成長していきたいと思っておりますので、今後ともぜひご指導ください。

ごとう あやみ

私の趣味

愛車と共に

訪問看護ステーション

ラポールちかもり
看護師 佐野 理香



愛車と、四国カルストで見かけた牛



趣味というとはほとんど思いつかず、休みの日も大抵は家でテレビを見て過ごすことが多い。そんな私も4月に念願の車を購入しました。平日は仕事で車に乗るため帰ってからわざわざ自分の車に乗るということはほとんどなく、毎日駐車場に停まっている愛車を楽しむことが趣味のようなものとなっています。せっかく買った車なのでたまには遠出してあげたいとも思うのですが、結局月1〜2回、実家に往復3時間かけて帰るくらいです。

この前やっと友達と私の運転で四国カルストに行きましたし、国道33号線で愛媛にも一人行ってみました。もともと出不精で誰かに誘ってもらわないと出かけることもしないような私ですが、愛車と共に少しずついろんな旅をして、ゆくゆくはそれが趣味だといえるようになれば良いなと思っています。

さの りか

Chikamori ★ Kitchen 19

かぼちゃのクリーミーパスタ

少しずつ涼しくなってきました。今回は秋を感じる食材、かぼちゃをつかったレシピを一つご紹介します。かぼちゃには、カロテンやビタミンEといった、老化防止が期待される抗酸化ビタミンが豊富で、食物繊維も多く含有しているため、便秘予防や美肌効果があります。かぼちゃを使った料理で、おいしくキレイに食欲の秋を迎えましょう。

◆材料(1人分)

- ・スパゲッティ 80g
- ・ベーコン 20g
- ・かぼちゃ 80g
- ・たまねぎ 1/4個
- ・しめじ 50g
- ・バター 5g
- ・牛乳 100ml
- ・生クリーム 25ml
- ・コンソメ 1/2個
- ・塩こしょう 適量
- ・乾燥パセリ 適量

◆作り方

①かぼちゃはタネを取り、適当な大きさに切ってレンジにかけておく。たまねぎ

臨床栄養部管理栄養士
主任 内山 里美



は薄切りに、しめじはいしづきをとり、食べやすい大きさに切る。ベーコンも一口大に切っておく。やわらかくなったかぼちゃの身をスプーンでとり、網でこす。②大きな鍋に湯を沸かし、スパゲティをゆでる。フライパンにバターを入れ、たまねぎをこがさないように炒め、しめじを入れて炒める。

③かぼちゃ、牛乳、生クリーム、コンソメを入れよく混ぜひと煮立ちさせる。ゆであがったスパゲティを入れ、ソースをからませて器に盛り、パセリをかけてできあがり。 うちやま さとみ

院内実働防災訓練／広域医療搬送訓練

ライフライン 途絶を想定して

災害対策委員会委員長
近森病院呼吸器外科部長 山本 彰



9月1日の「防災の日」に南海トラフ巨大地震を想定した政府広域医療搬送訓練（広域搬送訓練）が、全国規模で行われ、それにあわせて院内実働訓練が行われた。

午前中は多くの傷病者を受け入れる院内訓練が行なわれた。東日本大震災以降初めての実働訓練であり、スタッフ、傷病者役を含めて200名を超える参加者があり、例年以上に熱のこもったものとなった。

大規模地震の想定で、ライフラインは維持されており、災害拠点病院として、外来センターで多数の傷病者を受け入れる訓練を行った。また本年度の目標をトリアージなどの情報の確実な伝達管理することと、震災発生直後の災害対策本部の系統だった立ち上げを行うこととした。

概ね目標は達成され、訓練終了後のホワイトボードにその成果が現れていた。また平行して震災発生直後の被災状況の第1報を本部へ報告する院内情報伝達訓練も行なった。加えて高知市

医療支部と衛星携帯、防災無線など用いた通信訓練も行った。

午後からは「防災の日」政府広域医療搬送訓練に、当院の災害派遣医療チーム（DMAT）を中心に約80名が支援DMATの受け入れ病院として参加した。広域医療搬送は県外で治療すれば救命しうる傷病者を、県内外からDMATが参集し、ヘリコプターなどで搬送するものである。

今回当院は、施設や人的損害が大きく、ライフラインが途絶し、通信も不能という想定となった。13時過ぎに岡山県のDMAT2隊が到着し、混乱した院内で本部の支援や、医療現場での支援を行い、広域搬送拠点の高知大学病院へ救急車や介護タクシーなどでの搬送し、16時過ぎまで訓練が行われた。慢性透析患者などを対象としたバスによる県外移送訓練にも参加した。防災マニュアルの見直しに向け有意義な訓練となった。

やまもと あきら

トリアージを行う医療スタッフ



岡山県のDMAT2隊が到着

南海地震を想定した大規模な訓練（広域医療搬送訓練）

四国4県を舞台に

近森病院救急部
科長 井原 則之



毎年9月1日、関東大震災（大正12年）にちなんで「防災の日」は、全国でさまざまな災害対応訓練が行われています。今年の9月1日は、内閣官房・内閣府が関係機関と調整して行う大規模な総合防災訓練が四国4県を舞台に開催されました。

東南海・南海地震の最新の被災想定では高知県における死者数は最悪の場合で4万9千人、建物倒壊が23万9千棟におよぶと公表されました。高知県内の病院の多くも無事ではなく、手術や輸血、透析などが不可能となることは想像に難くありません。

県内の病院で治療できない方を、自

衛隊大型機でいち早く県外の病院に運ぶことを「広域医療搬送」と呼び、この訓練を高知大学医学部附属病院で行い、訓練総括管理を私が行いました。高知県内の各病院から患者さんを集め、氏名や怪我などの情報を管理して山口県や鳥取県などへ自衛隊大型ヘリで搬送する訓練でした。

当日は豪雨もあり、安全を重視して大型ヘリの飛行は中止となってしまいましたが、西日本各地から150名を超えるDMAT（災害派遣医療チーム）が集まり、大学病院での患者さんの治療や、各病院の支援活動を行いました。



東日本大震災でも1500名を超えるDMATが地震発生後24時間以内に福島、宮城、岩手、茨城各県に出動し、医療支援活動を行ないました。

南海地震が起らない、甚大な被害が出ないことがいざばんではありますが、もしも起こってしまったときに、緊急事態のなかで最善の医療ができるように、全国のDMATなどの医療班は最新知識の習得と訓練を続けています。

いはら のりゆき

ニューフェイス

①所属②出身地
③最終出身校
④家族や趣味のこと、自己アピールなど



公文 義雄

くもん よしたか ①糖尿病・内分泌代謝内科兼リウマチ・膠原病内科医師②高知県香美市物部町大柵③徳島大学医学部医学科④高知県の医療の充実のために、全力を尽くしたいと思っています。

編集室通信

最近「モノヅクリ」について痛感することが多い。日本の中小企業にはモノをつくる精神と技術がわずかに残っているが、日本のメーカーのほとんどが組み立て工場化していて、モノヅクリの精神を失っているように思う。大企業がおかしくなっているのも、モノヅクリの精神が希薄になってしまったからではないかと。 霖

2012年8月の診療数 システム管理室

近森会グループ	
外来患者数	18,428人
新入院患者数	865人
退院患者数	885人
近森病院	
平均在院日数	12.89日
地域医療支援病院紹介率	87.92%
救急車搬入件数	419件
うち入院件数	224件
手術件数	403件
うち手術室実施	286件
→うち全身麻酔件数	156件

● 平成24年8月度県外出張件数 ●
件数 59件 延べ人数 91人

図書室便り (2012年8月受入分)

- ・続々 怖れを手放す アティテューディナル・ヒーリング・ファシリテーター・トレーニング / 水島広子
- ・患者トラブルを解決する「技術」 / 尾内康彦
- ・保険薬事典 Plus + : 適応・用法付 薬効別 薬価基準平成24年8月版 / 薬業研究会 (編) 《別冊・増刊号》
- ・別冊 医学のあゆみ 神経消化器病学の進歩 / 佐藤信紘 (編)
- ・BRAIN NURSING 2012 夏季増刊 決定版 まるごと一冊! 脳梗塞 発症のメカニズム、診断、治療、看護、そして予防、地域連携まで / 橋本洋一郎 (監修)

- ・臨床栄養 別冊 NCM シリーズ Vol.3 栄養ケアマネジメントファーストトレーニング呼吸器疾患、摂食・嚥下障害、褥瘡他
- ・NHK きょうの健康 生活実用シリーズ 不安解消! めまい あなたに合った対策がわかる / 池園哲郎 (監修)
- ・臨床心理学増刊第4号事例で学ぶ臨床心理アセスメント入門 / 村瀬嘉代子 (他編) 《視聴覚資料》
- ・DVD版 アティテューディナル・ヒーリング・ファシリテーター・トレーニング続々怖れを手放す / 水島広子 (監修)